

長寿印西・健康サロン

セコメディック病院

副院長 川越 康博

1、認知症とは

認知症とは、一旦正常に発達し備わっていた高次(知的)脳機能が持続的に低下し、社会生活に支障を来たした状態を言います。

2、高次(知的)脳機能

脳の高次機能とは次の能力です。①記名力:ものを覚える能力②記憶力:覚えたことを保持する能力③見当識:月日、時間や場所や、人物などの見当がつく能力④思考力⑤理解力⑥計算力⑦判断力⑧言語力⑨学習力⑩創造力等の高度な能力です。

3、認知症の症状

認知症の中核症状は、記憶障害、見当識障害、失認、失語、失行、実行機能障害です。記憶障害は本症の中心です。見当

識障害は、自分のいる所が何処か、今が何時かわからない状態です。失認は、ものが何かわからないことです。失語は、しゃべれなくなる状態です。失行は、道具が使えない等で、

実行機能障害は物事の段取りができないことです。

4、認知症の予防

認知症には、治療可能な原因疾患の早期発見と治療、脳卒中予防(心房細動等の早期発見も含む)、脳の活性化が重要です。

5、治療可能な認知症の原因疾患

認知症の原因で、治療可能

な疾患には、脳腫瘍、硬膜下血腫、甲状腺機能低下症、ビタミンB₁₂欠乏症、アルコール中毒等があります。この故、疑わしい場合は、早めの病院受診が重要です。

6、老人性良性健忘と認知症の健忘

良性の物忘れは、人の名前や単語、漢字、体験の一部を忘れ、物忘れの自覚があります。またヒントで思い出したりして、日常生活に支障は無いものです。一方、認知症の物忘れは、体験全体を忘れ、ヒントを与えられても思い出せず、物忘れの自覚がなく、日常生活に支障が起こります。例えば、昨日スーパーに買い物に行き、果物や魚等を買った。何を買ったか、一部を忘れるのは、良性健忘で、スーパーに行った事自体全部を忘れるのが、認知症の健忘です。また、一連の会話の中で、同じ事を何度も繰り返すのも、認知症の疑いがあります。

【 続く 】

認知症とその予防

その1

